

特集 暮らしと水

伊万里の水道は10万円…

幸善町・富田いとしさん
(70周年誌より)

大正4年の水道完成祝賀行列には、母が参加しました。近所のおばあちゃん達に混じって、帯で妹を背負い私を歩かせ、両手の飯杓子で三味線の道囃子の調子をとりました。

私も、「伊万里の水道は10万円 10万円の鉄砲玉 玉やが可愛いスッポンポン」と歌いながら母の側について歩きまわり、人のゴツタ返す水源池の坂下までたどりつきました。

「参加者は、上で祝品ば受け取って帰って下さい」と前の方から伝わり、母は「こけーで待っとんさいのー」と私をその場に残すと坂を上がって行ってしまいました。

私は、人ごみに流され坂から離れてしまい、待てども待てども母とは会えませんでした。

「イトッ おんさいて言うとなつたば、なしてぎゃんとこまで来たネッ。世話やーたター」と、やっと出会った時に母から何時にない剣幕で叱られてしまいました。私は、言い返すこともできず、ひどく心細い思いをしたのに、母から渡された包みの中は一重ねの紅白のお餅でした。



ありし日の元浄水場

蛇口からほとぼしる 水のありがたさ

新天町・進藤すみえさん
(昭和54年8月1日広報いまりより)

蛇口をひねれば、好きなだけ水がほとぼしる。本当にありがたいと思います。

私は、今年2月に結婚して伊万里に住んでいます、それまでは井戸水を利用していましたので、水道のありがたさを、とても感じています。

昨年の渇水期には、福岡や佐世保などの各地では給水制限があり、大変困っておられました、伊万里は幸いにも竜門ダムで、その心配もなくなったとのこと、やはり、水道行政は生活に密着したものですから、多くの財源や負担金もいると思いますが、将来を見込んでの拡張整備を行うことも必要だと思います。

また、水は身近にあるために大切さ、ありがたさを忘れがちになっているので、お互いが無駄をなくし、節水に努めることが大切だと思います。



現在では使われていない湧水施設跡

特集 水道事業をよりよく行うために

伊万里市水道審議会

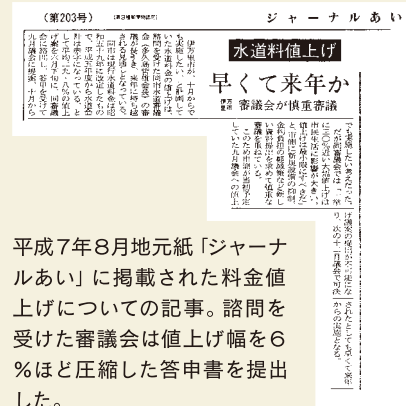
伊万里市では、水道事業管理者の諮問に応じて水道事業に関する重要な事項についての調査や審議を行うため、伊万里市水道審議会を設置しています。

現在の委員は、学識経験者や市内の各団体から推薦をいただいた11名で構成されており、任期は平成26年8月から2年間となっています。

市民の代表として水道料金の改定に対する諮問や、大規模な事業の是非などを行政側に偏ることなく中立の立場に立って審議いただいています。

諮問した案件については、この審議会より答申を受け、議会で審議採決される二重のチェックを受ける仕組みになっています。

現水道審議会
会長
川原 清春



平成7年8月地元紙「ジャーナルあい」に掲載された料金値上げについての記事。諮問を受けた審議会は値上げ幅を6%ほど圧縮した答申書を提出した。

民間委託と市民サービス

水道事業の民間委託は、昭和43年4月に、水道料金徴収を個人に委託したことから始まりました。昭和48年3月にはメーター検針業務を加え、現在では、夜間や土日祝日の有田川浄水場等の施設監視や漏水修繕工事など多くの業務を委託し、経費の節減に努めています。

また、昭和50年に料金算定や納入通知書作成を電算化し、昭和62年7月にオフコンを導入、平成9年にはパソコンLAN化し、職員1人に1台の環境を作り、電話での問い合わせなど迅速に対応できるようになりました。

平成16年度からは、一部簡易水道地域を除き、ハンディターミナルを導入し、検針時に上下水道料金の請求額をお知らせしています。また、使用水量の大幅な増加や漏水を検針時にお知らせすることにより市民の負担を軽減できるよう努めています。



ハンディターミナルによる検針



窓口対応の様子